

『みんなのスポーツ』6月号（No.494）から学ぶ

林 但

平素より協議会の活動にご理解をいただきありがとうございます。

表記、公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合機関誌の6月号は「**運動部活動の地域移行とスポーツ推進委員**」の特集号です。

私の視点にて今月号で気づいたこと・参考になる点を3点記載します。



1 「スポーツをひらく」兵庫県相生市佐平氏 後編

佐平さんの行動は見習わなければいけないと感じました。イベントに当たりオリジナルのコート作成など色々な工夫がされています。横須賀市ではスポーツ推進委員が障害のある方を巻き込んだイベントは行っていません。私の地域（中学校区）では35年前から障害のある方や高齢者の方を対象にした取り組みを地域ぐるみでしており、いろいろな気づきや学ぶことが多く行っても楽しいと感じています。この行事には中学生も参加してくれています、地域全体でのひとつの行事です。

2 「運動部活動の地域移行とスポーツ推進委員」の特集。

それぞれの市におけるスポーツ推進委員の選び方も大きく影響していると考えます。本市の様に各町内会から選ばれた委員とスポーツ協会から委員を選んでいる場合では、大きく異なるように思います。後者は取り組みやすいが、前者は中々難しい。指導者の確保や質（資格・教育など）も明確にする必要があると考えます。伴い実施に当たっては財源の問題もあります。神奈川県などからも今の所具体的なことは示されていません。しばらく注視していくとともに文科省から先進事例の紹介がありますので内容を確認していきたいと考えています。

3. わがまちの健康・体力づくり さいたま市

平成の大合併でH30年9月には人口が130万人を超える大都市です。市から委嘱を受けた259名が10の行政区毎から選ばれて協議会は成り立っています。協議会には3つの専門部会があり、総務・事業・広報です。

市が主催する行事を運営している他に、協議会ではR4年度は講義で「免疫力を高める生活習慣」、実技では「自宅でできる筋トレ」、ともにコロナ禍で活用可能なテーマで行ったとの事。また、今一番力を入れているのが、「ふらばーるバレー」と紹介されています。理由は、ケガが少ない他、集中力を高められる。初心者や幅広い年代の方が気軽に楽しむことができると書かれています。

活動に参加する方とそうでない方に2極化が顕著で、担い手や委員の活動が活発化するようなPR活動に取り組まれるとの事。

今月号では3つの事に記載致しました、知っていることが多いと思う方もあるかもしれませんが、気づいたことのできることから始めて（行動）みませんか？

* 本冊子は有益で私たちの活動のヒントや答えがあるように私は思います。年間購読されなかった方は、個別にも購入はできますので一度読んでみてください。問題意識や感度を高めていくと紹介されている事例が使える場合とこのままでは使えないがこうすればできる。こんな方法もあるなど感ずると思います。是非一緒に取り組んでいきましょう！

以上